

## 原罪 (original sin)

アダムとイヴから受け継がれた罪 (創世記 第3章) のこと。

## 神との約束

「園の中央に生えている木」(創世記 3:3) = 「善悪の知識の木」(創世記 2:17a)

「園のすべての木から取って食べなさい。」(創世記 2:16b)

「ただし、善悪の知識の木からは、決して食べてはならない。」(創世記 2:17a)

「食べると必ず死んでしまう」(創世記 2:17b)

「食べてはいけない、触れてもいけない、死んではいけないから」(創世記 3:3)

\* すべての木から食べて良いが、食べてはいけないものの定義

## 誘惑

「ヘビ」 → 「エバ」をそそのかす (創世記 3:1-5)

「エバ」 → 「アダム」に勧める (創世記 3:6)

\* 相手に対して強制していない、あくまで選択は自由意志 → 自由意志の誤用  
神からの離反

## 神の質問 (創世記 3:9-11)

「確認ではない」 → すべてお見通し

「罪の自覚」と「悔い改めの機会」を与えるため

「どこにいるのか」(創世記 3:9) → 神と人の関係破綻の文学表現

## 恥辱の意識

隠蔽されなければならないものの存在 → 自己解放の問題

「裸であったが、恥ずかしがりはしなかった。」(創世記 2:25)

↓ (変化)

「恐ろしくなり、隠れております。わたしは裸ですから。」(創世記 2:25)

## アダムとエバの返答

アダム → エバが取って与えたので食べた (創世記 3:12)

エバ → 蛇がだましたので食べた (創世記 3:13)

\* 反省ではなく、責任転嫁に終始した。

## 原福音 (創世記 3:15)

キリストが蛇 (サタン) に致命傷を与える十字架 (贖罪) の出来事を預言。

\* 失楽園の物語は絶望に終わるのではなく、  
やがて来る楽園回復につながる神の救いで締められている

イエスの死 = 神の愛の表現 = 再生の原動力

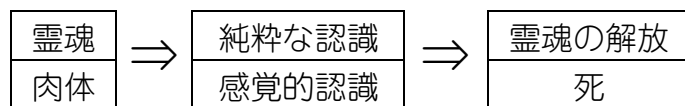
キリストの死 ⇒ わたしたちの罪のための死  
解釈 (信仰生活)

# 霊肉二元論（実体二元論）

乱暴に言うと  
 霊 = 良いもの                      肉 = 悪いもの

肉は霊の監獄である（プラトン B.C. 427-347）

- ・ 理論的に人間の心考えた。
- ・ 人間を靈魂(心)と身体(肉体)に分けて考えた。
- ・ 靈魂の不滅を主張した。



## 「罪」の英・日・希、比較表

英語	日本語	ギリシャ語
sin	罪（道徳的・宗教的な）	ἀμαρτία
crime	犯罪（法律上の）、悪事	κακός
sinner	罪人（道徳的・宗教的な）	ἀμαρτωλός
criminal	犯罪者（法律上の）、悪人	κακοῦλγος

ἀμαρτία    元々の意味は（間違った方法で）目標を逸する事。

人が神より離れ神にそむいている靈的状态

κακός      悪い、ひどい、悪意ある、邪悪な、有害な etc...

対義語は「ἀγαθός」 良い、善い、有能、善良、価値ある etc...

## 大齋節期間中の過ごし方の具体例 \*強制ではない

- 断食                                      聖公会では「灰の水曜日」と「受苦日」
- 期間中、肉を食べない  
     （東方正教会では、卵、乳製品、魚、オリーブ油、酒も含まれる）
- 娯楽の自粛
- 大齋克己献金                      何かを控えて使わなかったお金を献金
- 目標を掲げて実行する

## カーニバル（謝肉祭）

語源は、ラテン語の「carne vale」（肉 別れ）

祝祭の意味で使われているのは誤用